第22回アフターレポート

おしゃべり えほんの会

今回のテーマ

新刊絵本を読む

作成:四日市市立図書館児童室 ℡059-352-5108

於:2022年12月2日(金)午前10時～11時半 四日市市立図書館 3階会議室

年に一度のおたのしみ、一年間の新刊絵本のなかから司書がセレクトしたものを、手に取って見られる日です！いつもの人も、通りすがりの人も、初めて見る絵本にワクワク！

今回用意したのは71冊。どんな絵本が、参加者の心をとらえるでしょうか。

誰もが思わず手に取ってしまったのが、たなかひかるの2作品『おばけのかわをむいたら』『ねこいる！』。絵本の構成が新鮮で、子どもから大人まで、読む人を選ばないけど、ユニークすぎてついていけないけど、子どもは楽しいんだろうな、という意見もありました。新刊が待たれる作家です。

同様に、面白く読める、という意見が多かったのが、『タコとだいこん』『こんとごん』『2ひきのカエル』『チキカングー』『まって！まって！』『よしよしよしおさん』などでしょうか。

迫力ある生物の絵本(写真も)の『ホホジロザメ』『クジラの進化』『火の山にすむゴリラ』も人気。司書からは、四日市市に関係の深いイモムシ画家・桃山鈴子さんの『へんしん』を紹介しました。

一方、死を扱った谷川俊太郎作の『ぼく』には、様々な感想があり、みんながうーん、と考えました。

未来や希望を予感させる意見が多くあったのは、イランの絵本『ボクサー』。『スーツケース』や『サンサロようふく店』も、心が温かくなる絵本でした。

今、日本の作家もLGBTQを始めとする多様性を扱った作品を描き始めていますが、そういった分野では、まだまだ海外の作品に追いつけていないと思います。『おおきいかさ』『ピンクはおとこのこのいろ』『エリックの赤・緑』『からあげビーチ』『わたしとあなたのものがたり』などの素敵な作品を、みなさんにも読んでみてもらいたいです。

最後に、まだまだ面白い絵本を発表している田島征三さんの『た』を忘れずに！